

第1章 「こころの東京革命」が目指すもの

1 こころの東京革命の意義

戦後、我が国は生活の豊かさを求め、大きな経済的な発展を遂げてきました。

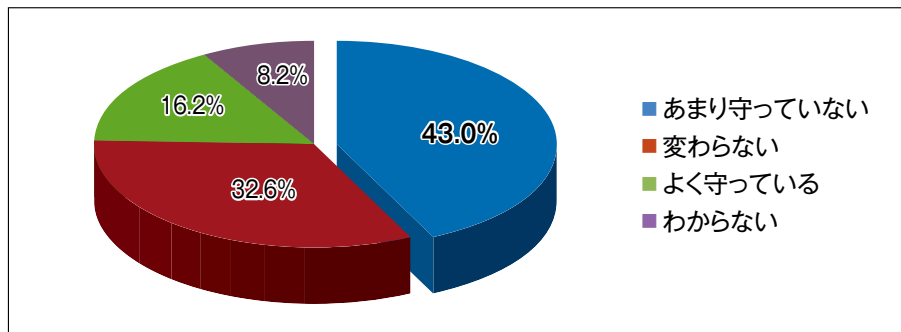
しかし、その一方で精神的な価値よりも金銭的、物質的な価値が、社会的な責任よりも個人の権利や自由が優先するなど、社会における価値のバランスが崩れてしまいました。このような意識構造の歪みは、子供の態度や行動に影響を与えています。

また、少子高齢化や核家族化の進展により、家庭、地域の教育力は著しく低下し、子供の規範意識や倫理観に欠ける問題行動だけではなく、挨拶をする、高齢者や体の不自由な方などに席を譲るといった社会における基本的なルールさえも守れない子供、さらには大人までもが増加しています。

「こころの東京革命」は、親と大人が責任を持ち、次代を担う子供の正義感や倫理観、思いやりの心を育み、自らが手本となりながら、人が生きていく上で当然の心得を伝えていこうという取組です。

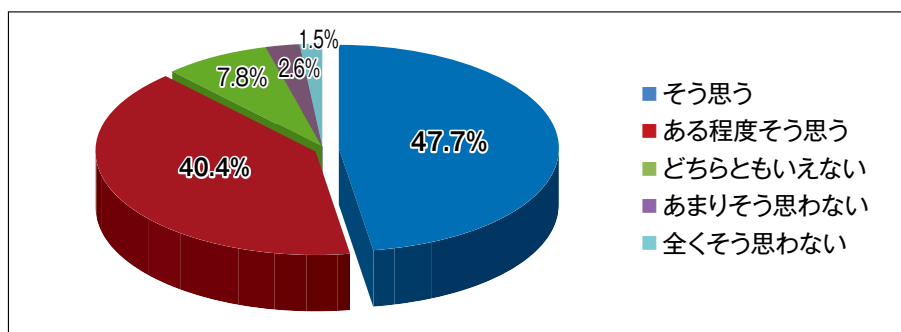
私たち大人は、未来を支えていく子供に、どのような社会にあっても守るべき基本的ルールがあること、そして、社会の一員として役割と責任を果たしていくべきことを自らの行動を通して伝えていかななくてはなりません。

自身の子供時代と比較して 現在の子供は社会のルールやマナーをよく守っていると思いますか



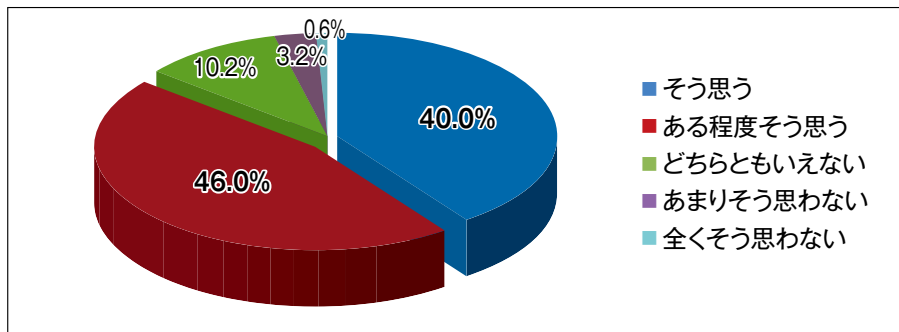
「家庭と地域で取り組む子供の健全育成」(平成26年度 都政モニターアンケート)

世の中全般に「家庭の教育力」が低下していると思いますか



「家庭と地域で取り組む子供の健全育成」(平成26年度 都政モニターアンケート)

世の中全般に「地域の教育力」が低下していると思いますか



「家庭と地域で取り組む子供の健全育成」(平成26年度 都政モニターアンケート)

2 こころの東京革命の歩み

東京都は、このような問題意識のもと、具体的な行動内容を示した「心の東京革命行動プラン」を平成12年8月に策定し(平成15年1月一部改訂)、こころの東京革命の普及啓発を進めてきました。また、推進母体として、民間団体や企業等の参加を得て「心の東京革命推進協議会」が平成12年10月に設立され(平成14年4月「心の東京革命推進協議会(青少年育成協会)」、平成26年9月「こころの東京革命協会」に改称)、東京都と連携し、様々な普及啓発事業を展開しています。

「こころの東京革命」の運動が始まって14年、この取組は区市町村や民間団体の協力を得て徐々に広がってきています。例えば、区市町村と東京都が共同で開催する、親が自信を持って「しつけ」に取り組めるよう支援する講座「こころの東京塾」には、平成14年度の開始から13年間で延べ23,881名(平成26年8月現在)が参加したほか、こころの東京革命協会の会員は261団体、5,004名(平成26年8月現在)を数えるなど、区市町村や青少年対策地区委員会、各団体でも、こころの東京革命の理念を踏まえた独自の取組が広がっています。

3 求められるのは大人の自覚と率先

しかしながら、「いじめ・児童虐待」「ひきこもり」「ネット依存」など、依然として子供を取り巻く課題は山積しています。ですが、このような問題の原因は、子供だけにあるわけではありません。

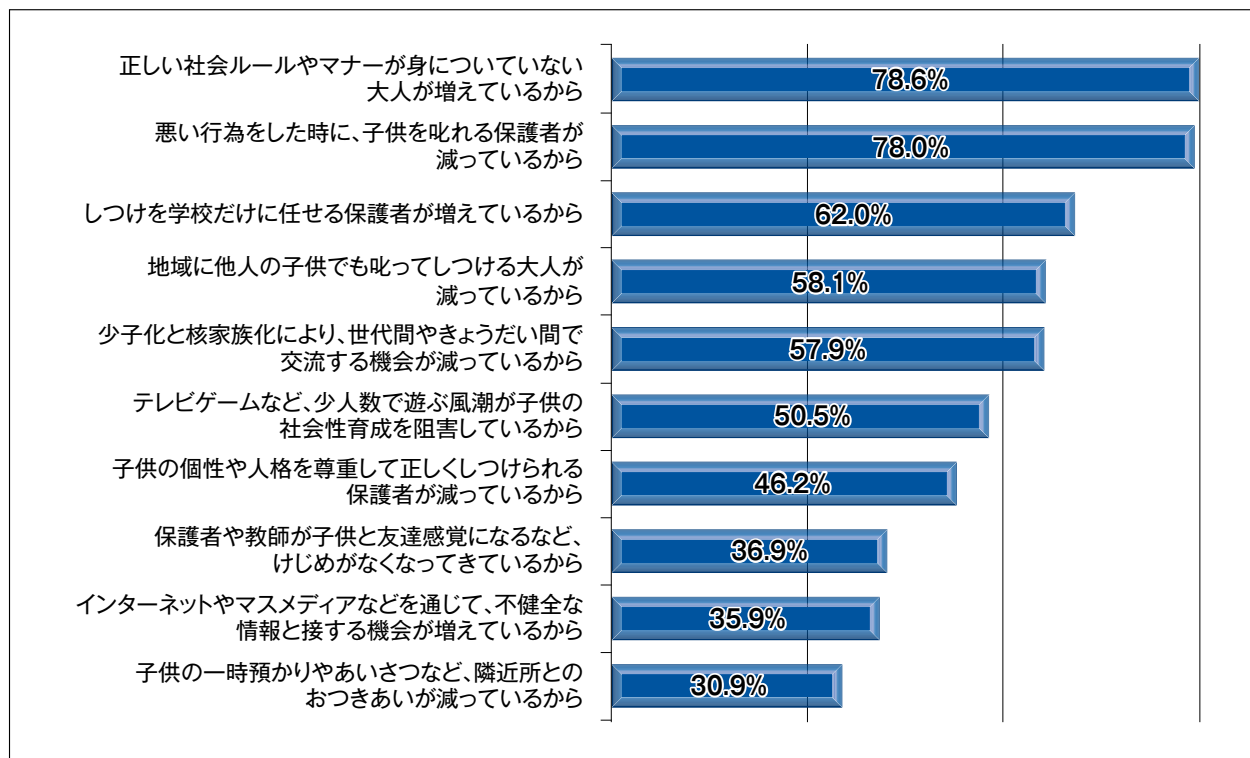
これまでも、こころの東京革命では、「大人が変われば子供も変わる、子供が変われば未来が変わる」と訴え続けてきましたが、この意義を改めて再認識すべき時です。

大人は、子供の手本となるよう自らの行動を律しつつ、必要なときは子供を厳しく叱り、毅然とした態度で臨まなくてはなりません。しかし、道で会っても挨拶しない、歩行中や運転中でもスマートフォンを操作する、電車やバスで高齢者や体の不自由な方などに席を譲らない、このような大人の行動を見て育った子供が、社会の基本的ルールを守り、社会の一員としての役割と責任を果たし、他人への思いやりに満ちた大人へと成長するでしょうか。

今こそ、私たち大人は、コミュニケーションの基本である「挨拶」すら満足にできていない現状を恥じ、自分自身の行動を見つめ直し、将来を担う世代を率先して導く存在へと変わらなくてはなりません。

繰り返しになりますが、「こころの東京革命」の取組主体は「大人」なのです。

子供が社会のルールやマナーを守れない原因(上位10位まで。複数回答)



「家庭と地域で取り組む子供の健全育成」(平成26年度 都政モニターアンケート)

4 行動プランの改訂 ～「心の東京革命」から「こころの東京革命」へ～

今回、こころの東京革命を推進していくに当たってのスローガンや具体的な行動内容を示した行動プランを、社会経済状況の変化や6年後に控えた2020年オリンピック・パラリンピックに向けた取組を通じた「こころの東京革命」の一層の推進を目的に一部を見直すこととしました。併せて、こころの東京革命の表記を「心の東京革命」から「こころの東京革命」に変更し、ロゴについてもリニューアルをしました。

「こころの東京革命」をオリンピック・パラリンピックのレガシーとして

2020年、ここ東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。ブエノスアイレスで行われた開催都市選考最終プレゼンテーションでの「お・も・て・な・し」。この言葉が東京での開催を引き寄せたともいわれています。オリンピック・パラリンピックの大会期間や開催に向けた様々な取組を通じて、私たち大人一人一人が世界に誇るべき日本人の「こころ」を再認識し、実践を通じて子供を育み、オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、「おもてなしのこころ」「思いやりのこころ」、さらに「こころの東京革命」の理念を後の世代にしっかりと引き継いでいきたいと思います。